

## データ解析、自然言語モデル、人工知能は支援者となり得るのか。

もうすぐ支援のあり方も変化する！？ AI（人工知能）を活用したハイテク支援の時代が、到来しようとしています。

2022年11月30日、米国のあるベンチャー企業が開発した人工知能チャットボットがリリースされ、まるで人間と自然に会話しているかのような性能の高さから「新しい産業革命」と示唆されるほど世界に衝撃を与えました。

このように近年、AI（人工知能）の技術進歩はめざましく、様々な分野に応用されようとしています。それは福祉業界においても例外ではありません。ある企業は膨大なケアプランデータと医療や介護の知識を統合し、ケアプラン作成を支援するツールを開発しようとしています。またあるところでは、数千件に及ぶ支援記録をインプット、学習させた後にスコア化し病状悪化の予兆などをアラートし

てくれるシステム開発も実験的に行われました。医療においても、患者の表情、声、会話内容などの情報をデータ処理し、AIによる機械学習や解析を通して精神疾患の定量的判断を可能にする医療機器の開発も進んでいます。

AI技術の進歩は、全て取って代わるとまではいかないものの、支援をアシストしてくれる領域にはすでに足を踏み入れているようです。様々なビックデータを分析し、支援に活かす取り組みはもうすでに始まっています。数年後、わたしたちは福祉における産業革命の目撃者になっているのかもしれない。

執筆者：広報 與那覇 滉矢

## Associa Staff

小林 あいら

所属：アソシア・ジョブ川西

大阪生まれ神戸育ちの関西人で、楽しいことを企画&実行するのが大好き！プライベートではバンジー・ジャンプ・フルマラソン・自転車です。琵琶湖一周など…さまざまな挑戦を実行してきました。海外・国内問わずフラッと出掛けることも好きです。そんな私とアソシアとの出会いは3年前。転職を考える際、福祉に関わりのあ



る友人に「イケてる福祉の会社ってある？」と相談し紹介してもらったのがアソシアでした。そしてその当時の住まいから数キロの場所にアソシアが進出したのも3年前。この出会いは奇跡と感じずにはられません。現在は就労移行で支援員として、「人に明るさと勇気を与える」をテーマに、日々楽しみながら支援を行っています！

## Reccomend Movie 006



当作品は2006年に公開されたターセム監督の映画。冒険の舞台を映像にするため、世界24か国で撮影が行われた。その中には13もの世界遺産が含まれ、色鮮やかな映像世界はCGばかりの昨今の映画の中では類を見ない映像美だ。それに加え、物語も魅力的だ。主人公は彼女に振られ、怪我を負ったスタントマン。入院先で自暴自棄になり、多量服薬での自殺を図るために、隣のベッドにいる少女に薬を盗ませる。薬を持ってきたご褒美のために、空想上の物語を話し始める。聞き手の少女の想いが、自暴自棄の主人公が話す物語に次第に影響を与え、やがて荒んだ主人公（自分自身）をも救う壮大な物語へと広がっていく。現実と空想が幻想的に織りなす傑作である。

執筆者：CEO 神谷 牧人

新年度が始まり、新たな気持ちで前進する気持ちとなりました。これまでの経験を振り返り、反省もしながら、今後の目標を見据えて一歩ずつ進んでいきたいと思えます。編集としては、読者の皆様にとってより良い情報を提供することを目指し、より充実した広報誌を作り上げていきます。

記事：chatGPT

発行元：株式会社アソシア

法人本部：沖縄県中頭郡北谷町北前 1-10-8

TEL：098-926-5175 FAX：098-926-5176

MAIL：info@associa-lnd.co.jp

HP：https://associa-lnd.co.jp/

インスタグラムで情報配信中



ジョブ川西 ホイスコーレ神戸

Associa  
local network design

# ASSOCIA JOURNAL

April  
2023

TAKE  
FREE



VOL.07





## 「地域」×「アソシア」地域に循環可能な“輪”への第1ステップ

コーヒーイベントを入り口に、地域の方々と「繋がる」インクルージョンを目指して

2月25日(土)に「誰でも気軽に立ち寄れて、垣根がないカフェ。浜辺にいるような優しい時間を。」というコンセプトのもと、SHIROI SUNAHAMA コーヒーイベントを開催しました。川西市や市社会福祉協議会のご協力もあり大盛況となりました。昨年の12月からイベント当日まで、訓練生と共に進めてきた活動や想いをカタチにすることができました。コーヒー豆のブレンドやブランド名のアイデア出し、試飲、販売するコーヒーの選定。また、農家の方から頂いたみかんでジャムやピールを作り、試食提

供も行いました。農場見学から試作、パッケージデザイン、支出計算等々…関わってくれた方々やご来場頂いたお客様へお渡しした際には「またイベントを行って欲しい」とあたたかいお言葉と笑顔で溢れていました。また、会場内にはお子さんのこと、仕事のことなどを相談できるブースを設置。イベントを通して、事業所の取り組みを地域のお客様に知ってもらう事ができ、貴重な機会となりました。普段は関係のない福祉施設が地域のコミュニティとなり、様々な人たちとの繋がりが生まれ、互いに支え合える関係作りの第一歩を踏み出す事ができたと感じています。今後も就労支援を通して、地域でありのままの姿で暮らしていけるような環境を作り上げていけるよう、ジョブ川西では訓練生と共に邁進していきます。

執筆者：ジョブ川西 和田 真由子



## Column

第三の居場所「子どもの居場所 advance」子どもの居場所を運営して3年…日々子ども達の成長を感じるのが楽しみです！！

**沖** 縄県うるま市という地域で子どもの居場所、いわゆる第三の居場所運営に携わり 3年目を迎えています。開始初年度の今頃は、子ども達との顔合わせから始まり、子ども達も居場所の職員も緊張や不安がありながら毎日を過ごしていました。少しずつですが様々な活動を通して子ども達と関係を築き、最初の頃は名前も呼んでくれなかった子ども達が「先生」と呼ぶようになり、「名前を呼んで欲しい」とお願いすると、あだ名をつけて呼んでくれるようになりました。今では子ども達が職員や子ども同士で、言いたいことを好き勝手に主張するまでになっています。元気があり余って、時々收拾がつかなくなる時もあります。

さて、今年度は子どもたちの受け入れ校区が増え、利用人数も増えていく予定です。また職員体制も一新することから、初年度のような緊張や不安感漂いながらの4月になっているんだろうと少し先の事を考えながらこの投稿を書きつつ、今抱えている年度末業務の多さに現実逃避したくなる僕です。今年度も居場所 advance を宜しく願います。

執筆者：うるま市子ども居場所 嶺井 誠一郎



## 元利用者インタビュー～Vol.2「得意を活かせることに、やりがいを感じます」

訓練生として自分のチカラを発揮することができたKさん。現在アソシアの事務スタッフとして働く彼の「やりがい」の源泉について聴いてみました。

アソシアを利用した経緯を教えてください。

-Kさん：元々は地域活動支援センターを利用していましたが、コロナの影響もあって自宅で過ごすことが多く、生活リズムも悪化し、規則正しい生活も送れていない状況でした。そんな中、川西市で新しい就労移行支援施設ができると聞き見学したのですが、実践的なコミュニケーションについて学べるのではないかと思い利用することを決めました。

利用した印象はどうでしたか。

-Kさん：エアコンが故障していてかなり寒かったです。みんな防寒しながら訓練に参加していましたね(笑) わたしが利用し始めた頃は弁当やバッグの販売をしていて、経理や庶務業務を担当していました。最初はただスタッフからの指示を受けて作業をしていて、受動的に訓練に取り組んでいたかと思います。そんな中、スタートの頃だったこともあり、いろいろと細かいトラブルも多かったのですが、そうした困りごとに関して自分で考えて試していく機会も多くなり、それが自分

のモチベーションになっていると気づきました。特に自分が得意な表計算ソフトを活用して、いくつか作業効率アップにつながったこともあり、アソシアを利用した当初の自分と比較して、能動的に作業したり、提案したりすることができるようになりました。

就職したきっかけは何でしょう。

-Kさん：当初は職業指導員として働く予定でしたが、スタッフから「事務員としていてくれたら助かる」と声をかけてもらいました。最初は、自分が提示された時給分の働きができるのか不安でした。話があったとき、時給を下げてもらえないかともお願いしましたね。その心配は今でもありますが、やりがいもあります。

どんなときにやりがいを感じますか。

-Kさん：書類整備やデータ入力など、事務仕事を中心に行なっていますが、業務



の自由度が高いのでどうやったら作業の効率化が図れるのかにやりがいを感じます。工賃袋に貼る名前ラベルを自動で生成するツールを作成したり、時間がかかる作業にプログラムを使って作業を楽にしたり、そうした自分の得意なことで周りから感謝されたことは、素直に嬉しかったです。これからも、試行錯誤しながらいろいろな工夫ができないか考えていければと思います。

協力：ジョブ川西 Kさん



学生時代周りとの違和感を持っていました。卒業後に ADHD と ASD の診断がつき、病院の紹介でアソシアの存在を知り利用開始、1年程利用した後に一般就労へ。様々な世界に興味を持ち、渡り歩いていましたが、昨年脳卒中で入院することに、退院後もう一度アソシアで再スタートを切りました。アソシアは様々な人が利用し、みんなそれぞれの困難を乗り越えようとしていて、人生のプラットホームみたいな場所です。ありのままの自分で居られる場所、変わらない自分も認めてもらえる場所だから、変わってない気もするけど、1人では思いつかない選択肢を得られた場所でもあります。

協力：ホイスコーレ沖縄 利用・Tさん(29歳)